

感震ブレーカーで「家」と「地域」を守ろう！

地震による火災の多くは電気が原因

阪神淡路大震災や東日本大震災で起きた火災の多くは、電気関係が原因でした。

大規模な地震発生時には、揺れに伴う電気機器の転倒等により可燃物に接触する火災や、停電から電気が復旧した時に発生する通電火災などの電気火災が発生します。

電気火災対策には感震ブレーカーが効果的

感震ブレーカーは、震度5強相当の地震を感じて、電気を自動で遮断します。不在時やブレーカーを落として避難することが困難な場合に電気火災を防止する装置です。

感震ブレーカーには「分電盤タイプ（内蔵型）」、「分電盤タイプ（後付型）」、「コンセントタイプ」、「簡易タイプ」があり、性能評価を受けた製品には認証マークや推奨マークが表示されています。

分電盤タイプ（内蔵型）

分電盤に感震遮断機能が内蔵されています。地震が発生し、大きな揺れを感じると、ブザー音になります。夜間の避難などを考慮し、すぐには電気を遮断しない機能を持つ機種もありますが、その場合には感知して一定時間後、ブレーカーが落ち、電源を遮断します。設置には電気工事が必要です。



分電盤タイプ（後付型）

既設の分電盤に後から設置できる後付型です。設置には電気工事が必要となります。また、分電盤の形状や種類によって、取付けが可能なものと不可能なものがあるので確認が必要です。



コンセントタイプ

内蔵されたセンサーが地震を感じるとコンセントからの電気を遮断します。電気を遮断されるのはこのコンセントに接続された家電のみですので、特に出火の危険性の高い電熱器具が接続されているコンセントを中心に設置すると効果的です。避難用の照明や在宅用医療器具等、地震時においても電力供給が必要な機器への電力供給を継続することができます。コンセントタイプには差込型の他に埋込型もあります。



簡易タイプ

地震の振動で主幹ブレーカーをOFFに切り替えます。バネで動作するものや、おもりで動作するもの等があります。バネで動作するものは地震を感じると、中のバネの力でバンドが作動し、物理的に主幹ブレーカーをOFFにします。おもりで動作するものは、地震の振動でおもりが落ち、つながったひもで主幹ブレーカーをOFFにします。



感震ブレーカーを設置する時の注意点

- ・分電盤タイプなどのように、地震が発生した際に家庭内のすべての電気を遮断するものは、医療機器などに影響を及ぼすことが考えられます。停電時に対応できるバッテリー等を備えるなど、注意してください。
- ・夜間に地震が発生し感震ブレーカーが作動すると、停電し照明が消えます。夜間の避難に備えて、非常灯や懐中電灯等の照明器具を準備しましょう。
- ・揺れが収まり、電気の使用を再開する際には、ガス漏れ等の確認や電気機器の周囲に可燃物がないかなど、建物内の電気製品の安全確認を行いましょう。

詳細は、関連情報をご覧ください。

関連情報

[住宅防火関係映像資料（総務省消防庁）（外部リンク）](#)

【お問い合わせ先】

大垣消防組合消防本部 予防課 火災調査係 0584-87-1512